

平成30年 年末の交通安全県民運動実施要綱

1 目的

本運動は、年末に交通死亡事故や重大事故が多発する傾向があり、また飲酒する機会が増え、飲酒運転による重大事故の発生も考えられることから、県民に交通安全思想の普及・浸透を図り、交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践を周知するとともに、関係機関・団体が広報、啓発、交通安全教育活動を展開することで、県民総ぐるみで年末の交通事故防止の徹底を図ることを目的とします。

2 期間

運動期間 12月1日（土）から12月31日（月）までの1か月間

3 運動の進め方

- (1) 推進機関・団体は、連携を密にして、交通の状況や地域の特性を踏まえた具体的な実施計画を定め、地域、職域、家庭が一体となり、それぞれが自主的に進める「県民総ぐるみ」の活動を展開します。
- (2) 推進機関・団体は、管下の機関・団体等に具体的な実施方策を徹底するほか、新聞・テレビ・ラジオ等のマスメディア、広報紙（誌）、広報車、社内放送、インターネット等の各種広報媒体を活用して、広報・啓発を推進し、運動の周知を図ります。

4 運動の重点

- (1) 高齢ドライバーを含む高齢者と子どもの交通事故防止
- (2) 夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗用中の交通事故防止
- (3) 全席シートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- (4) 飲酒運転の根絶
- (5) 横断歩道利用者の安全確保

5 運動の重点に対する実践事項

- (1) 高齢ドライバーを含む高齢者と子どもの交通事故防止
 - ア 安全に道路を通行するため、幼児・児童とその保護者に対する交通安全教育・呼びかけの促進
 - イ 通学路等や交通危険箇所における幼児、児童に対する保護誘導活動の推進
 - ウ 高齢歩行者の死亡事故の特徴等を踏まえた交通安全教育等の実施
 - エ 70歳以上の運転者に対する高齢運転者標識（高齢者マーク）の使用促進と高齢者マークを表示している自動車への保護義務の周知徹底
 - オ 加齢に伴う身体機能の変化が体に及ぼす影響を理解し、自らが交通事故を防止することを習得させる、「参加・体験・実践型の交通安全教室」の開催
 - カ 運転免許証の自主返納制度および自主返納者に対する各種支援施策の広報啓発による自主返納の促進

キ 高齢者と子どもに対する思いやり運転の周知徹底

(2) 夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗用中の交通事故防止

ア 歩行者、自転車利用者に対する反射材用品等の利用の推進

イ 「自転車安全利用五則」を活用した交通ルール・マナーの周知徹底

ウ 幼児・児童の乗車用ヘルメット着用の徹底と、高齢者や中学・高校生等の自転車利用者に対するヘルメット着用の促進

エ 自転車事故被害者の救済に資するための損害賠償責任保険等への加入の促進

オ 夕暮れ時における自転車を含めた車両の前照灯早め点灯励行

カ 夜間の対向車や先行車がない状況におけるこまめなハイビーム切り替え運動の促進

キ 歩行中、自転車乗用中における携帯電話等の使用（画像注視等）の危険性を認識させるための周知徹底

ク 薄暮時間帯における視認性の低下と日没後1時間は死亡事故が多発傾向にあることの周知徹底

(3) 全席シートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底

ア 後部座席を含めた全ての座席におけるシートベルトとチャイルドシートの着用義務の周知徹底

イ シートベルトとチャイルドシートの正しい着用の必要性・効果に関する理解の促進

ウ シートベルトの高さや緩みの調整、チャイルドシート本体の確実な取付け方法及びハーネス（肩ベルト）の締付け方等、正しい使用方法の周知徹底

エ シートベルト着用体験車等を活用した参加・体験・実践型交通安全教室の開催

(4) 飲酒運転の根絶

ア 交通事故被害者等の声を反映した広報・啓発活動等を通じ、飲酒運転を絶対に許さない環境づくりの促進

イ 飲食店等における運転者への酒類提供禁止の徹底およびハンドルキーパー運動への参加促進

ウ 飲酒運転の悪質性・危険性を理解させる広報・啓発活動の実施

エ 自動車運送事業者による点呼時におけるアルコール検知器の使用等、飲酒運転根絶に向けた取組の実施

(5) 横断歩道利用者の安全確保

ア 「横断歩道は歩行者優先」であることの周知徹底

イ 信号機のない横断歩道に付随する標識標示（特にダイヤモンド）等の再認識と周知徹底

ウ 横断歩道横断時における安全確認の周知徹底

エ 横断歩道横断時を含めた道路横断中の事故形態の周知、特に歩行者から見て左

側から近づく車両に対する安全確認の徹底

6 運動の重点に対する呼びかけ事項

(1) 高齢ドライバーを含む高齢者と子どもの交通事故防止

○ 運転者は

- ・子どもや高齢者を見かけたら、徐行または一時停止するなど、その行動に十分注意して運転しましょう。
- ・思いやり、ゆずり合いの気持ちを持って運転しましょう。
- ・高齢者マークを表示している車に対して、無理な割り込み等をせず、思いやりを持った運転をしましょう。
- ・自分の運転特性を認識し、飛び出し等があるかもしれないという意識を持って防衛運転をしましょう。

○ 家庭では

- ・外出する子どもや高齢者に対し、身近に起きた交通事故等を例にして、安全な道路の横断方法、通行方法などについて「ひと声」かけましょう。
- ・歩行者、運転者それぞれの立場における日常の交通安全行動について家族で話し合しましょう。
- ・夜間、不要不急な外出は避けるようにしましょう。
- ・免許証の自主返納制度を理解し話し合うほか、会合や集会等の機会において、その周知に努めましょう。

○ 地域・職域などでは

- ・会合等の機会に子どもや高齢者を守る交通安全行動を呼びかけましょう。
- ・交通危険箇所における安全点検や、危険箇所の情報共有のほか、子どもや高齢者の保護誘導活動を積極的に行いましょう。
- ・家族がみんなで参加できる「参加・体験・実践型の交通安全教室」を開催しましょう。
- ・朝礼、会議等の機会において、車を使用する従業員等に対して交通法令の遵守と、子どもや高齢者を見かけた際の注意事項等を説明しましょう。

(2) 夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗用中の交通事故防止

○ 歩行者は

- ・夕暮れ時や夜間は、自動車からは見えにくいことを意識し、反射材用品の活用、明るい色の服の着用しましょう。

○ 自転車利用者は

- ・「自転車は車の仲間」であることを認識し、交通ルールを必ず守りましょう。
- ・「滋賀県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例」により、滋賀県では自転車の損害賠償責任保険の加入が義務化されたため、条例の趣旨を理解し、必ず自転車保険に加入しましょう。

- ・ 自転車安全利用五則を守りましょう。

※自転車安全利用五則

- ① 自転車は、車道が原則、歩道は例外
- ② 車道は左側を通行
- ③ 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行
- ④ 安全ルールを守る
 - ・ 飲酒運転、二人乗り、並進の禁止
 - ・ 夜間はライトを点灯
 - ・ 交差点での信号遵守と一時停止、安全確認
- ⑤ 子どもはヘルメットを着用

【自転車が歩道を通行できる場合】

- ★ 道路標識、標示により通行できるとされている場合
- ★ 幼児、児童（13歳未満）、70歳以上の者または車道通行に支障がある身体障害者が運転する場合
- ★ 道路工事等のため車道の左側端の通行が困難なとき
- ★ 著しく自動車等の交通量が多く、車道幅が狭いため、追越しをしようとする自動車等との接触事故の危険がある場合

- ・ 「スマホや携帯電話を使いながらの運転」や「イヤホンやヘッドホンで音楽などを聴きながらの運転」のような「ながら運転」は絶対にやめましょう。

○ 自動車運転者は

- ・ 薄暗くなったら、早めに前照灯を点灯しましょう。
- ・ 前照灯は上向き（ハイビーム）が基本です。対向車や先行車両など、他の車両等の交通を妨げるおそれがあるときは下向き、それ以外は上向きと、こまめに前照灯を切り替えて運転しましょう。

○ 地域・職域などでは

- ・ 夜間の事故の危険性や反射材の効果についての理解を深めるため、参加・体験・実践型の交通安全教室を開催しましょう。

(3) 全席シートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底

○ 運転者は、

- ・ 「車に乗れば必ずシートベルト・チャイルドシート」という着用習慣を身につけましょう。
- ・ 近距離の移動においても、必ずシートベルトを着用しましょう。
- ・ 子どもには体格に応じたチャイルドシートを正しく取り付け使用しましょう。

○ 家庭では、

- ・ 車で出かける家族に、シートベルト、チャイルドシートの着用について「ひと声」かけましょう。
- ・ 多人数で乗車する時には、全ての座席でシートベルトの着用を徹底しましょう。

○ 地域・職域では

- ・シートベルトの必要性や効果についての周知を図るため「シートベルト着用体験車」などを活用する交通安全教室を積極的に開催しましょう。

(4) 飲酒運転の根絶

○ 運転者は

- ・飲酒運転は犯罪であることをよく認識して、少しでもお酒を口にしたら運転は絶対にやめましょう。
- ・お酒の出る会合には、車を運転して行かないようにしましょう。
- ・深酒や夜遅くまで飲酒した時など、二日酔いのおそれがあるときは、運転をしないようにしましょう。

○ 家庭では

- ・車を運転する家族には、お酒を勧めないようにしましょう。
- ・飲酒による運転への影響や、飲酒運転事故による生活への影響（罰金や民事訴訟など）について考えるほか、飲酒運転を「しない・させない」ために、家族でできることはなにか（お店への送迎など）について、家族で話し合しましょう。

○ 地域・職域などでは

- ・車を運転する人にはお酒を勧めないことを徹底しましょう。
- ・朝礼、会合等の機会に、飲酒運転の危険性や交通事故の悲惨さについて話し合しましょう。
- ・積極的に「ハンドルキーパー運動」に参加しましょう。

(5) 横断歩道利用者の安全確保

○ 運転者は

- ・横断歩道では歩行者が優先であることを再認識し、特に信号機のない横断歩道を渡ろうとする歩行者を認めた場合、横断歩道の手前で必ず停止し、歩行者に道を譲りましょう。
- ・信号機のない横断歩道の手前には、横断歩道ありの路面標示（ダイヤモンド）や道路標識が設置されています。これらが見えたら、歩行者の有無をしっかりと確認しましょう。
- ・違反になるから止まるのではなく、ドライバーと歩行者が気持ちよく道路を利用しましょう。
- ・運転者から見て、道路を右から左に横断する歩行者と衝突する事故形態が多いことから、特に右から道路を横断する歩行者に注意しましょう。
- ・夜間は横断歩行者の発見が遅れがちになることから、前照灯をこまめに切り替える「ハイビーム切り替え運動」に努めましょう。

○ 歩行者は

- ・道路を横断するときは、必ず横断歩道を利用し、左右の安全確認と、車が停

止してから横断を始めましょう。

- ・横断歩道に接近する車両に対して可能な限り、手を挙げるなど横断する意思表示をしっかりとしましょう。
- ・道を譲ったドライバーに対して可能な限り、お辞儀するなど感謝の意思表示をし、ドライバーと歩行者が気持ちよく道路を利用しましょう。